

保育のヒント～「科学する心」を育てる～

たくさんの不思議！／ひかり幼稚園（宮城県）

「種から芽が出る」ということを知り、「やってみたい」と心を動かす子どもたち。

では、保育者は子どものように発芽に心を動かすことはできるでしょうか？

子どもが思っているほどの驚きや不思議さ、疑問を、保育者としてどのように共有していますか？

今回は、種から芽を出してみたいという思いをきっかけに、「科学する心」に繋がっていく「たくさんの不思議との出会い」を、子どもの言葉に着目してご紹介いたします。



● 身近な小さな生き物／4～5歳児

昨年の栽培経験により、種から芽が出ることを知った子どもたち。畑の黄色のキュウリの種から芽を出すことは成功した。しかし、その後、出た芽から苗まで育てることはできなかった。キュウリの種ではできなかったけれど、「大きな種なら育つかも说不定」と推測し、グレープフルーツの種を、以前と同じように脱脂綿に乗せて栽培を開始する。グングン芽が伸びて葉っぱが現れた。

ここから、子どもたちはたくさんの“不思議”に出合った。

✿ 事例：幼虫発見！アゲハチョウ

● グレープフルーツの葉っぱに虫がいる！何の虫だろう？

子ども：「グレープフルーツの葉っぱに卵を産んだのかな？」

子ども：「これは、アゲハチョウの幼虫なんだって！
おばあちゃんが言ってたよ！」

保育者：「そうなんだ！じゃ、大きくなるまで見守ろう！」



● 緑色のウンチしてる！？

子ども：「元気がないね、大丈夫かな！？」

子ども：「ウンチが黒から緑色になってる、下痢みたいにも見えるけど、おなかが痛いのかな！？」



● 青虫が糸を出している！？

子ども：「糸で体をぐるぐる巻きにしている！？」

子ども：「サナギの準備かな！？」



● サナギになった！？

9月下旬、サナギになる。

みんなは「このまま、チョウチョになっては、冬になってしまう…」と思う。

子ども：「冬にチョウチョになっても大丈夫かな？」

子ども：「チョウチョは、春に飛んでるよね」

子ども：「図鑑を見ると、冬は寒くて死んでしまうかもしれないって…」

保育者：「じゃ、冬は、チョウチョにならないように見守ろうね」

(そのまま、冬を越す)



● サナギが動いた！？

5月、今日も観察している子どもたちがいる。

子ども：「サナギが動いている！」

子ども：「あれっ動きが止まった…」

子ども：「お日さまが当たると動くよ！

お日さまが当たらないと止まるんだね！」

動いているサナギを見て、子どもたちが集まってくると、サナギが全く動かなくなる。

子ども：「サナギさん、びっくりしたのかな？」



翌日、サナギから蝶が出てくる。
子どもたちの感動体験になる。

✿ 考察

種からの栽培に1度は失敗した子どもたちだが、違う種で再度栽培を始めると、葉が表れること、虫が出現することなどたくさんの“不思議”に出合った。「この虫は何になるのか…」など、新たな興味が引き出された子どもたちは、実際に観察することで、生命の不思議、蝶になるまでの不思議を知ることができた。そして何より、青虫から蝶への成長を見守り、生き物を大切にしようとする気持ちが育まれた。